

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

28 (通巻32号)

平成19年6月26日発行

【目次】

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【29】	1
軽衫(カルサン)袴、裁付(タツツケ)袴、伊賀袴、山袴、もんぺ・・・、その違いは?	
こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【20】	2
「史料纂集」古記録編 既刊137冊 古文書編 既刊35冊 続群書類従完成会 昭和42年~平成18年刊行中絶	
市町村のみなさんからの発信 【18】	3
ときどき試される清水町図書館 清水町図書館 山本 明子さん	
Librarian's Box(ししょぼこ) 【17】	4
メルマガから旬の情報を得よう	
課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 - 【18】	5
「調査だけじゃない?! 参考調査課」	
こんなことしました 【3】	6
北海道医療大学総合図書館と道立図書館との協定	
レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介(2007年3月~5月分)	7
News	8
1 「公共図書館における図書館職員の研修に関する実態調査報告書」刊行	
2 日本図書館協会が「指定管理者制度を検討する視点(試行版)」を発表	
3 文部科学省が学校図書館の現状に関する調査の結果を公表	
4 Google ScholarでCiNiiの文献も検索可能に	
5 国立国会図書館が「憲政資料室所蔵資料」の検索ツールを公開	
6 エッセイ「図書館員が極めて重要である33の理由」が話題に!	
7 石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会が第37回「学校図書館賞」を受賞	
8 『現代の図書館』44巻4号で道立図書館が論じられる!	
9 『みんなの図書館』362号で道立図書館の夕張市支援を紹介	
10 新しい利用者支援「インターネット資料検索講座」がスタート!	
11 子ども向け利用講座「としょかんはともだち」を開催	
12 市立釧路図書館がWeb OPAC公開	
編集後記	10



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【29】

軽衫(カルサン)袴、裁付(タツツケ)袴、伊賀袴、山袴、もんぺ・・・、その違いは？

当館では、チャイナ服やももひきなど作り方の本の照会も多く受けますが、今回はあまり聞きなれないものだったので、いろいろな文献にあたることを覚悟して調査しました。

「**軽衫(カルサン)袴の仕立て方の本**」についての照会でした。軽衫袴とは、ポルトガル人がはいていたズボンの影響を受けた袴で、安土桃山時代に流行したようです。ポルトガル語の *calsao* (カルサオ) から来た名前です。どういう袴なのでしょう。

すでに時代劇の衣装や若干和裁の本は調査をしているようでしたので、ほかの和裁の資料や南蛮貿易などの資料にあたってみることにしました。

軽衫(カルサン)袴については、『服飾事典』(同文書院 1981) 『和裁精義下』(三省堂 2000) 『新版 和服裁縫 下』(日本和裁士会 1982) 『裁縫精義 帯及袴篇』(東洋図書 1951) 『文化服装講座 服装史篇』(文化服装学院出版局 1958) に記述がありましたが、仕立て方はありませんでした。

また、記述内容に少しずつ違いがありました。たっぷりとしたズボンで、裾が絞られている絵(の資料)、「伊賀袴ともいい、脚絆(きゃはん)式(人体のすねの部分に巻かれる布でズボンの裾を押さえて動きやすくする)」(の資料)、「ひざ下を絞ったものでこれに靴下をはいたもの、」(の資料)と書かれています。の資料では、「軽衫は裁付袴とほとんど同じ物」と書かれ、裁付袴の裁ち方(各部の寸法)が掲載されていました。の資料では、「もともとスペイン語である」と書かれ、「脚絆の部分に上下紐がついて、上下で紐を結ぶようになったのはカルサン、紐がなくてコハゼになったのは裁着(裁付)と『近世風俗志』に記してある」「その後、裁着軽衫を改良して踏込(ふんごみ) 地方へ伝わって山袴、雪袴、猿袴、もんぺなど130くらいも名があった」そうです。もんぺのようで裾が絞られているというイメージはつかめましたが、結局は区別が難しいようです。

「山袴」「もんぺ」というところから民俗衣装や労働着などを探していたところ、『仕事着 東日本篇 西日本篇』(神奈川大学日本常民文化研究所調査報告書第11,12集)(平凡社 1986-1987)にカルサンの図や裁断図がありました。しかし、仕立て方はなく、また、わりと新しい時代の調査のせいか、当時のものとは遠いような気がしました。

次に国立民族学博物館HPにあるデータベース『服装関連日本語雑誌記事 カレント』『服装関連日本語図書』(*)で検索し、『長野県民俗の会通信 62号』などいくつかヒットしましたが、当館で所蔵がないため、内容の確認はできません。『標本資料目録データベース』でも「山袴：軽衫」の画像がヒット、関連資料も所蔵していると判断し国立民族学博物館へ照会しました。

数日後、回答があり、仕立て方の図書(『日本の労働着：アチック・ミュージアム・コレクション〔源流社 1988〕』のほか、16世紀頃の南蛮文化の影響を受けて着用されたものの図・寸法が記載されている資料、『南蛮服飾の研究』雄山閣 1976)や雑誌『衣の民俗館・日本風俗史学会中部支部研究紀要 第6号』〔高橋俊之他「岩崎城主丹羽氏次と丹羽氏次所用の装束」〕などに記載されていることがわかりました。その後、道内市立図書館2館・大学図書館3館等の所蔵を確認し、無事紹介することができました。日々の利用者のレファレンスから、日常生活では遭遇しないと思われる物事の歴史的背景や話題になっていることなどを知ることができ良い経験をさせていただいています。

* 参考：『服装・身装文化(コスチューム)データベース』(国立民族学博物館)
当館リンク集 Do-Links (主題別文献データベース>社会科学) にリンクしています。

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【20】

「史料纂集」 古記録編 既刊 137 冊 古文書編 既刊 35 冊 続群書類従
完成会 昭和 42 年～ 平成 18 年刊行中絶

当館では国史研究の基本となる大物史料、例えば「大日本古文書」「大日本古記録」「大日本史料」など東京大学史料編纂所によるもの、あるいは「史料大成（正統、及び各増補）」「史籍集覧」などの収集に努めてきたところですが、出版時期の巡り合わせで、どうしても購入できなかった（と、推察できる）ものもあります。

今回取り上げる「史料纂集」もそのひとつで、非常に息の長い叢書で既刊分も多いことから、中々手を出せないでいたものです。

そんな折も折、発行元の続群書類従完成会が平成 18 年 9 月に倒産という事態になりました。このまま放置すれば手に入らない巻も出てしまう。今ならばほぼ揃いの状態で押さえられるとの判断で、購入することになったものです。

続群書類従完成会と言えばその名称のとおり、正・続群書類従の刊行とその補遺・補完事業の完成を目的として、大正 11（1922）年に創立。この頃の編纂顧問及び編纂員には黒板勝美、辻善之助、高野辰之、山田孝雄など錚錚たる研究者の名が連ねられておりました。その後、関東大震災や昭和 20 年の大空襲の罹災を乗り越え、優れた歴史資料を数多く世に出してきました。

「史料纂集」は、続群書類従完成会が創立 45 周年の記念事業として企画し、昭和 42 年に刊行を開始したもので、我が国の史学、文学をはじめ、日本の文化研究上、重要な未刊行史料の翻刻と、既刊であっても全面的な改訂を要する史料の集成を意図したもので極めて学問的価値の高い叢書といえます。各史料、文書の最終巻に付く解題は伝来、形態、内容性格などについて詳細であり、史料の理解に大いに役立ちます。また、内容に応じて、人名、地名、件名索引などが付けられ検索に役立つよう工夫されており、流石に歴史物の老舗だな、と思わせます。

このように概観してみると、続群書類従完成会の倒産は重大事件であったと思うのですが、当時の新聞報道などの扱いは小さく、倒産を惜しむ声もあまり目に触れることがなかったと記憶しています。書目によっては刊行途中のものもあり、是非とも事業の継続を期待するものです。

そのような経緯から、現時点では既刊の全てが所蔵になってはいませんが、順次揃えられる予定です。

最後におまけの話。続群書類従完成会の「出版図書目録」は史料探しの良き参考書でもあります（無論、同会発行物を対象としての話ですが）。例えば巻末の索引は収録されている史料名単位で引けるので、どの叢書の何巻に収録かが分かる上に、目録の本文を見ればその史料の簡単な説明があります。また、家系関係の資料では、家は何巻に収録と分かる索引が付いています。

このような配慮ができるのも続群書類従完成会ならでは、と思うにつけ、再起を強く願うものです。

市町村のみなさんからの発信 【18】

ときどき試される清水町図書館

清水町図書館 山本 明子 さん

カウンターの向こう側には少々困った顔の利用者。こちら側では魔法のような指さばきでツールを駆使しているライブラリアン。ほどなく自信満面の笑みとともに「お探しの資料はこちらですね」とファイルを差し出し、利用者の困った顔が満面の笑顔に変わり感謝、感謝の雨あられ……。そんな光景を思い描いては、だあれもいないカウンターで一人ほくそえんでいる私。

今回、参考調査課の某氏より「原稿を書かなきゃレファレンス受けてあげない」と可愛く脅され(ウソ)『Do-Re』の中身にふさわしいものをと過去の事例集を引っ張り出そうと試みたのですが、あ、事例集は作ってなかったんだっけ...というこのていたらく。すみません、清水町図書館で問い合わせがあるのは新聞等で紹介された本が入っているのか、いないのかがダントツでおよそレファレンスと聞いてイメージするような問い合わせは年に一度あるかないかなのです。そんな毎日に慣れている身の上ですから、本当にホントのレファレンスが来たときは、自信満面の笑みどころか、困った顔の利用者より更に困った顔を見せ付ける始末で...しどろもどろに何とか回答したあとは、一年分の仕事をした気分になってしまうということの繰り返しなわけです。

それでも！このときどき試された感のあるレファレンスが日々衰えていく脳細胞を活性化してくれていることもまた事実。

前置きが長くなりましたが、過去に試され、敗北を喫したレファレンス事例集をいくつかご紹介します。

大江健三郎がノーベル文学賞を受賞したとき、賞金額の報道もされました。

そのときに受けた質問がこれ。賞金は一括でもらうの？それとも分割？

なぜ、賞金は日本円にしていくらなのかという質問じゃないんでしょう...もちろん調べてはみましたが、結果は問い合わせた先に鼻で笑われて終わりです。今でも電話の向こうから返ってきた答えは一言一句覚えています。「一括か分割かって言われてもねえ...それは...ねえ...フ」

この質問をされた方は軽い気持ちで聞いたただだから忘れてちょうだいねーと軽やかに去っていかれましたが、今でもノーベル各賞が発表されるときには、もしや賞金の受け取り方法も報道されるのでは！と反応してしまいます。調べ方とできれば答えを知っている方がいらっしゃいましたら、どうかこの哀れな子羊をノーベルの呪いから救ってくださいませ。

少し前に終わったドラマの原作が読みたい

インターネットもまだ電話回線の頃のこと。地道に新聞のテレビ欄をたどりドラマのタイトルは判明しましたが、原作まではわからず。こういう時はと、即座にテレビ局に問い合わせました。その時、何の前置詞も無く返ってきた答えがこれ。「では、また明日」.....はあ？なぜ今日教えてくれないわけ？...皆さんはお気づきですか？そうこれが原作のタイトルだったんですねー。私はそれに気づくまで3回「では、また明日」だけを繰り返されましたとさ。

Librarian's Box (ししょぼこ) 【17】

メルマガから旬の情報を得よう

皆さん、メールマガジン (Mail Magazine:和製英語) を購読していますか？

メールマガジンとは、発行者に自分のメールアドレスを登録すると定期的に電子メールの形で配信されるもので、一般的に「メルマガ」と略されます。

最近では、企業や官公庁・団体・個人がいろいろなジャンルのものがありますが、そのほとんどは無料で発行されています。購読するための登録・解除も簡単で読者にとっては、自分の欲しい最新の情報が継続的に入手できるというメリットがあります。

また、その記事は関連する Web ページにリンクされているものもあり、興味を持った内容についてさらに多くの情報を収集することが可能です。

今回は、図書館の日常業務に関わる「お役立ち」のメルマガを5つ紹介します。

JLA メールマガジン (日本図書館協会) HP : <http://www.jla.or.jp/>

メールマガジン: [トップ](#) > JLA メールマガジン申込

購読条件: 日本図書館協会の会員であること 刊行頻度: 原則として週1回・水曜日

図書館界ニュース、集会・研修等のお知らせ、図書館関係新聞記事・資料・情報源の紹介、求人情報等です。図書館界の最新情報を得られることはもとより、地方新聞の関係記事まで非常に多くの情報が掲載されています。図書館職員必読のメルマガです。

図書館協力ニュース (国立国会図書館) HP : <http://www.ndl.go.jp/>

メールマガジン: [トップ](#) > 図書館員の方へ > 図書館へのお知らせ > メールマガジン『図書館協力ニュース』

購読条件: 図書館あるいは図書館職員 刊行頻度: 毎月1回・第2火曜日

国会図書館 HP の「図書館へのお知らせ」に掲載する図書館協力に関する情報を配信。研修案内や図書館協力に関するQ&A、レファレンス・ツールの紹介などを掲載。特にレファレンスサービスに有効な情報が得られます。

カレントアウェアネス-E (国立国会図書館) HP : <http://www.ndl.go.jp/>

メールマガジン: [トップ](#) > 刊行物 > 研究資料 > カレントアウェアネス-E

購読条件: どなたでも 刊行頻度: 原則として月2回 (第1・第3水曜日)

図書館及び図書館情報学に関する最新ニュースを提供。海外の情報についても一部翻訳・要約して掲載されています。

メールマガジン・SENTOKYO (専門図書館協議会) HP : <http://www.jsla.or.jp/>

メールマガジン: [トップ](#) > メールマガジン お申し込み・バックナンバー

購読条件: どなたでも 刊行頻度: 月2回程度

図書館関係のセミナー・展示会、新刊案内 (官庁・地方議会・民間各種団体・調査研究機関・企業・大学等の図書館・資料室に関連する書籍)、ニュース&トピックス (関係の新聞記事・Web上の記事を紹介) など。

メルマガ「社研通信～社会教育メールマガジン～」(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)

HP : <http://www.nier.go.jp/jissen/index.htm>

メールマガジン: [トップ](#) > メールマガジンについて

購読条件: どなたでも 刊行頻度: 月1回

当センター「社研」からのお知らせ (研修事業等) のほか、エッセイ、文部科学省生涯学習政策局社会教育課からのお知らせ、文部科学省マナビイ情報、文部科学省エドネット情報など。

ほかにも、私たちの仕事に有効なメルマガはたくさんありますよね。北海道教育委員会の「未来人 (みらいびと)」もあります。当館もメルマガによる情報発信を検討しなくては..。

課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 - 【18】

「調査だけじゃない?! 参考調査課」

この4月から参考調査課の一員となりました。

次々に届く調査依頼のファックス、鳴り止まぬ電話、難しい事柄についての調査依頼の手紙…。片手には参考図書、耳には受話器、回答文書の作成に追われる日々。

こんな毎日が始まるのだろうか、とっていました。

もちろん、続々と寄せられる問い合わせに対して、資料を追いかけ、インターネット上の情報や人的ネットワークも駆使し、ばりばりと調査をすすめていく上司、先輩・同僚らによって「参考調査」課は成り立っているのですが、それだけでは、なかったのです。

最近、参考調査課の業務のなかで大きなウェイトを占めはじめているものに、研修事業の企画・準備があります。市町村の皆さんに向けた、レファレンスのスキルアップを目指す研修をはじめ、個人の方を対象に、本の並び方に始まって図書館の利用のしかた、参考図書やインターネット上の情報の検索のしかたなどの講座を開いています。

参考調査課に入って2か月近く、どちらかというと私自身は調査というよりは、研修・講座の準備や企画にかかわることの方が多かったように思います。

こどもの読書週間にちなんだ「子ども向け利用講座」、5月5日の今年度第1回「書庫ツアー」、道民カレッジ連携講座第1回「暮らしに役立つ図書館活用術 - 基礎編 - 」など、熱心な参加者がありました。

また、「市町村図書館職員レファレンス体験研修」はすでにくつかの市町村から申込みをいただいています。今年度も各地からの参加をお待ちしています。参加者それぞれに合わせたカリキュラムを課内で検討したり、参加の皆さんへ事前にお送りする調査課題（宿題）を考えたりしながら、参加の皆さんの力となる研修をつくり上げていくとともに、逆に私自身も参加の皆さんからの刺激を受けてともに高め合っていけるようになりたいと思います。

また、今年度は2年に1度の「全道図書館レファレンス研修会」の開催年にあたっており、その具体的な研修内容や日程の素案づくりなどに携わりました。図書館が、レファレンスが、まちの課題解決にどう関われるのかを考える場となるような研修会に、と企画しています。ぜひ、ご参加いただきたいと思います。

ほかにも、レファレンスにかかわるような事で、こんな研修を受けてみたい、というご希望がありましたら、どうぞお寄せください。

これからも利用者にとって「調べものの援助を受けられる図書館」であり続けることはもちろん、最終的には、「自分で調べられるようになる図書館」というのが目指す方向になっていくのかな、と個人的には思ったりしています。そのための、図書館員同士の高め合いの研修であり、図書館のPRであり、利用案内の講座であり、各種ツールの編集・作成なのだ、と改めて思いました。

とすると、参考調査課の仕事の幅も結構広い。調査だけじゃなかった。というのが、「参考調査課」メンバーになって2か月の感想です。

こんなことしました 【3】

北海道医療大学総合図書館との相互協力に関する協定

昨年6月、北海道医療大学総合図書館の平紀子事務室長が当館を訪れ、当館との相互協力、連携のお話をいただきました。市民の健康に対する関心の高まりを背景に、図書館界においても闘病記文庫の開設や医療・健康情報提供に関する講座の開催など、“健康情報の提供”の取り組みが広がりつつあり、健康情報等に関する照会が目立ってきた当館にとって、このお話は願ってもないことでした。

両館が相互協力関係を結ぶことによって、健康に関する専門的情報や知識を道内の図書館を通じて、必要としている人々に的確に提供できるようになればと思います。

5月29日に館長同士によって相互協力に関する協定書を締結し、6月1日から新しい一歩を踏み出しました。

Q 今、図書館界においても健康情報の提供の可能性を模索する動きが出ていますが、それぞれの図書館ではどのような課題を抱えていると感じますか？

A (医療大) 本学図書館では一般市民の健康情報へのニーズの高まりに応じ、健康情報セミナーを開催するなど、図書館サービスをアクティブに行っていく必要性を感じています。また、一般市民の情報ニーズを的確に捉え、本学図書館における情報提供機能の充実につなげたいと考えています。

A (道立) 当館においても市町村や個人の方から、医療・健康・福祉に関する照会や貸出しが目に付くようになりました。ただ、生命や健康に関わることでもあり、資料や情報の収集・提供においても新鮮、正確、慎重さなどが求められ、資料を評価するという点において不安を抱えているのが公共図書館員ではないかと感じていました。

Q 今回の協定にあたって、それぞれの図書館が目指すものは何ですか？

A (医療大) 従来大学図書館は教育・研究の支援を中心とした資料整備、情報サービスの提供を中心に行ってききましたが、道立図書館を通して遠隔地の利用者に向けた情報サービス提供が実現します。また、本学図書館が道民が抱える健康問題等の情報提供窓口となり、本学の学部とその情報を共有することにより、地域密着型の研究につながることで社会貢献として道民に還元されると考えます。

A (道立) 健康情報は専門的であるがゆえに、専門機関である医療大学との連携を深める中で、公共図書館自らが的確な情報源やそれを評価する方法を知るといったノウハウを身に付け、適切な資料や情報の収集や提供が可能になればと思います。そういったノウハウを市町村に還元し、そして最終的に道民の要求に応えることにつながればと思います。

Q 相互協力として、相互貸借・レファレンス・その他とあがっていますが、具体的にはどのようなことを考えていますか？

A (医療大) 道立図書館と医療大学図書館の連携により開催される健康情報セミナーは、健康情報に関心のある方を参加対象としており、地域における健康情報交換の場へと拡がることを期待しています。また相互貸借やレファレンスでは、当館に所蔵する資料等をベースに、地域の中で最大限活用していただきたいと考えます。

A (道立) リクエストされた資料は、最大限当館で入手し提供することが原則だと思いますが、入手できないもの、回答困難なレファレンスに協力していただくことのほか、今年度は年2回共催で健康情報の講座を予定しています。また、広報や展示等でも双方協力できればと思いますが、こういった協力関係を通して、専門機関のノウハウを身につけることができればと思います。



医療大：細川館長 道立：清原館長
(平成19年5月29日)

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2007年3月～5月分)

論題(記事名) 著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館 NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 れふぁれんす三題噺(139) 東京学芸大学附属世田谷中学校図書館の巻 レファレンスから見える中学校図書館の日常 村上恭子 『図書館雑誌』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 101(5)[2007.5] p302 - 303
- 2 <書評> 『図書館のプロが教える<調べるコツ>』 清水昭治 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 59(1) [2007.5] p36
- 3 小さな分館でも、ビジネス支援図書館サービスは可能 明石浩 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会〔編〕 (361)[2007.5] p49 - 50
- 4 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 13) 映画 大串夏身 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (76)[2007.4・5] p48 - 51
- 5 れふぁれんす三題噺(138) JFE 健康保険組合川鉄千葉病院図書室の巻 病院現場での医療職向け図書室から 奥出麻里 『図書館雑誌』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 101(4)[2007.4] p234 - 235
- 6 図書館における自動レファレンスサービスシステムの実現--Web 上の二次情報と図書館の一次情報の統合 - (情報学基礎・デジタルドキュメント・学生チャレンジ特集) 田村悟之 ; 清田陽司 ; 増田英孝他 『情報処理学会研究報告』 情報処理学会 2007(34) [2007.3.27] p1 - 8
- 7 レファレンスツール紹介(6) 言葉に関する資料と情報--朝鮮語 『アジア情報室通報』 国立国会図書館 / 国立国会図書館関西館資料部アジア情報課 編 5(1) [2007.3] p18 - 19
- 8 れふぁれんす三題噺(137) 東京文化会館音楽資料室の巻 上野の森より - 音楽の専門図書館です - 永井靖子 『図書館雑誌』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 101(3)[2007.3] p174 - 175
- 9 《新刊紹介》『レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン』 稲垣房子 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 58(6)[2007.3] p369
- 10 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 12) 土地の価格に関する地図で探す 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (75) [2007.2・3] p28 - 31

NEWS

1 「公共図書館における図書館職員の研修に関する実態調査報告書」発行

全国公共図書館協議会が2006年度に電子メールで実施した全国の公共図書館の職員研修の実態調査について、報告書にまとめました。集計の他、データ抽出による簡単な解説もあります。

公立図書館における図書館職員の研修に関する実態調査報告書

<http://www.library.metro.tokyo.jp/15/15h2006.html>

2 日本図書館協会が「指定管理者制度を検討する視点（試行版）」を発表

日本図書館協会が指定管理者制度の適用にあたっての検討の視点として、「指定管理者制度を検討する視点 よりよい図書館経営のために」（試行版）をまとめ、公表しました。その内容は「現在の管理運営形態の点検」「指定管理者制度を検討する場合のチェック項目」「指定管理者制度導入後のチェック項目」の3つで構成されています。

「指定管理者制度を検討する視点 よりよい図書館経営のために」（試行版）

<http://www.jla.or.jp/site/check.pdf>

3 文部科学省が学校図書館の現状に関する調査の結果を公表

文部科学省初等中等教育局は、各都道府県教育委員会を通じて行った学校図書館の現状に関する調査について、平成18年5月現在の概要として、その結果を公表しました。司書教諭発令状況、読書活動の状況として朝の読書・読書感想文コンクール・公共図書館との連携などの実施状況や図書等の整備状況がまとめられています。

学校図書館の現状に関する調査の結果

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/04/07050110.htm

4 Google Scholar でCiNii の文献も検索可能に

国立情報学研究所は大学などに提供していた学术论文300万件のデータをGoogleから利用できるようにしました。学術情報特化型のサーチエンジンGoogle Scholarからアクセス可能となりました。

Google ScholarはDo-Linksの本や雑誌などを探すサイト>雑誌>雑誌記事索引にリンクされています。

Google Scholar <http://scholar.google.com/intl/ja/>

5 国立国会図書館が「憲政資料室所蔵資料」の検索ツールを公開

国立国会図書館憲政資料室で所蔵している憲政資料、日本占領期資料（プランゲ文庫を含む）、日系移民関係資料といった日本の近現代政治史にとって重要な「憲政資料室所蔵資料」を検索するツールを公開しました。文書の記述情報（文書群の名称、数量、旧蔵者名、旧蔵者の来歴、資料群の来歴、主な内容、目録等）をインターネットで公開し、来館しないと所蔵を確認できなかった文書史料（手紙、日記、書類、公文書）が一部を除きインターネット上で検索が可能となりました。

国立国会図書館 > 資料の検索 > 憲政資料室の所蔵資料

http://www.ndl.go.jp/jp/data/kensei_shiryu/index.html

6 エッセイ「図書館員が極めて重要である33の理由」が話題に！

学位取得を目指す人のための情報提供サイト“DegreeTutor.com”に発表されたエッセイ「図書館員が極めて重要である33の理由」が注目されています。これはシャーマンという人物がこれから図書館情報学を学び、図書館員を目指す人のために書かれたものです。そこでは、インターネット上で様々な情報を入手できる時代になっていますが、図書館員は、実はそこにおいて重要な役

割を果してきた、あるいはこれからも果していく情報専門職だということが33項目に分けて解説されています。日本語訳は発表されていませんが、カレントアウェアネス-Eで概要が紹介されたり、個人のブログでも取り上げられています。

原文(英語) <http://www.degreetutor.com/library/adult-continued-education/librarians-needed>
カレントアウェアネス-E(No.100 2007.02.14 E601 図書館員が極めて重要である33の理由)
<http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/cae/item.php?itemid=618>

7 石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会が第37回「学校図書館賞」を受賞

全国学校図書館協議会が選考する第37回「学校図書館賞」において、第3部「学校図書館の実践活動」で受賞されました。組織的な研究活動による基礎的実務能力と専門的知識の獲得及び「パースファインダー」によるメディア活用能力の育成、図書館利用指導の実践が評価されての受賞です。

8 『現代の図書館』44巻4号で道立図書館が論じられる！

特集「地方自治制度の変貌と都道府県立図書館」の中の、渡邊斉志氏の投稿論文「都道府県立図書館の機能に関する言説の批判的分析」(『現代の図書館』44巻4号)で、現在の北海道立図書館のサービス等が東京都立図書館とともに分析されています。市町村支援の視点から、かなり踏み込んだ批判的分析です。

9 『みんなの図書館』で道立図書館の夕張市支援を紹介

特集「都道府県立図書館と市町村立図書館支援・協力協働のいま」の中で、『みんなの図書館』362号)と題して、当館の市立夕張図書館休館後の夕張支援について紹介しています。

10 新しい利用者支援「インターネット資料検索講座」がスタート！

今年度からインターネットを使って資料を探す方法を職員がマンツーマンで利用者に指南する新しい形式の利用者講座を始めます。当館のWeb-OPACの他、書誌(所蔵)検索の基本となるNDL-OPAC(国立国会図書館)やNACSIS Webcat(国立情報学研究所)などの各OPACの検索方法、Do-Linksを使っての各サイトによる出版情報の調べ方など、利用者の希望により具体的な講座内容を決め、説明していきます。市町村図書館職員レファレンス体験研修の一般の方向け版とも言える講座です。詳細は当館HPでご案内しています。

11 子ども向け利用講座「としょかんはともだち」を開催

皆さんの図書館(室)においても「こどもの読書週間」と「子ども読書の日」にちなんだ様々な事業を持たれたことと思いますが、当館では4月22日(日)に子ども向け利用講座を開催しました。閲覧票の請求記号をもとに書庫から本を探したり、貸出業務を体験しました。

また、江別市のおはなしサークルボランティア「おはなしなあに」の方たちによるお話会もあり、参加した子どもたちは最後まで楽しみました。

12 市立釧路図書館がWeb-OPAC公開

市立釧路図書館がWeb-OPAC(インターネット上の蔵書目録)を公開しました。合併に伴い地区館として位置付けられた音別町ふれあい図書館、阿寒町公民館図書室の蔵書も含むものです。

これで道内の市立図書館の内、蔵書20万冊以上の図書館が全てインターネットで蔵書検索可能となりました。

釧路市 <http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/> トップ> 図書の検索・予約> 釧路市の図書館 資料案内

編集後記

個人の利用者からのレファレンスが増えています。いかに利用者に満足していただけるかがいつも課題です。求める情報が見つからない場合の対応にはいつも気を遣うところです。代替の資料がないか等、時間はかかりますが根気よく調査していきたいと思っています。(N)

『Do-Re』デビューの春。原稿を書くのに四苦八苦しましたが、これまで31号の『Do-Re』の名に恥じないものが書けるようにこれからも精進したいと思います。(U)

この間、全身の筋肉量やバランス、ミネラル比率など体組織の成分がわかる機械で自分の体を調べてもらったのですが、腕の筋肉が足や胴に比べ発達しているという結果が出ました。もちろん、トレーニングなんてしていません……。分厚い参考図書や新聞の縮刷版などなどダンベルよりも重いものを日々持ち運んでいるからでしょうか(や)

今年で『Do-Re』の記事を書くのも3年目になりました。納得できる内容を書けているとは、まだまだ言えない状態ですが、がんばって記事を書いていこうと思います。(T)

北海道医療大学総合図書館との相互協力に関する協定を締結しました。当館としては、初その他機関との協定となります。この協定が市町村図書館(室)にとって、当館へ来館される利用者にとって具体的なサービスの向上につながるよう努めなければなりません。当課としては、医療・健康情報に関する協力レファレンスのバックアップとして心強い繋がりができました。また、年度内に予定されている共催の健康情報セミナーも当課が企画・運営にかかわります。2年に1度の全道図書館レファレンス研修会も来月に開催されます。もちろん市町村図書館職員レファレンス体験研修も随時実施します。次々と事業に追われる毎日ですが、よりよいレファレンスサービスをお届けできるよう努めてまいります。(宮)

本年度最初のDo-Reをお届けします。いつも筆の遅いワタクシメが発行予定を遅らせております。(深〜く反省しております。)市町村の皆様にはドウゾ懲りませずご寄稿くださるようお願いいたします。(S)

～平成19年度の参考調査課～

次のとおり異動がありました。

<転出> 蛭名優子(奉仕部資料課へ)
羽田芳美(定年退職)

<転入> 西岡祐子(奉仕部資料課から)

今年度は佐藤、宮本、工藤、山本、今野、西岡の6人で頑張ります。



Do - Re(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の
略から名付けました。
しかしながら
“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 28(通巻32号)

発行年月日 平成19年6月26日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
